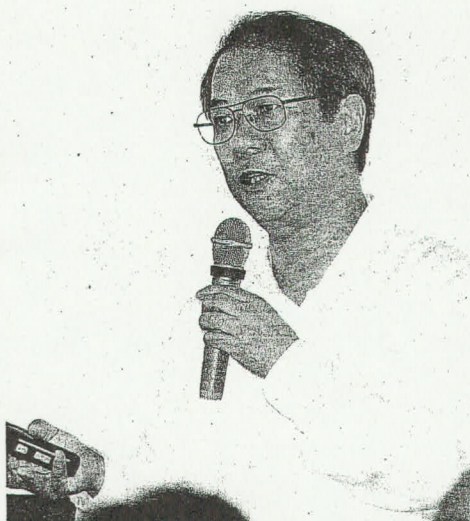


平成27年8月4日(火)

「漁業は成長産業」強調

宇和島で
セミナー 鹿児島大教授が講演



公開セミナーで講演する木村郁夫教授＝4日午後、宇和島市築地町2丁目

宇和島の水産業の活性化を目指す公開セミナーが4日、宇和島市築地町2丁目の県漁連研修センターであり、鹿児島大水産学部の木村郁夫教授が水産物の加工や品質保持に関する研究成果を披露し、今後の漁業振興への道筋を説いた。

文部科学省補助事業「地域イノベーション戦略支援プログラム」の一環で、水産業の6次産業化を担う人材を育成する講座を開いて

いる愛媛大南予水産研究センター(愛南町)が主催。市内外の水産会社や漁業団体、自治体関係者ら約80人が参加した。

木村教授は各国の海で研究を続けてきた経験から「世界的に見ると漁業は成長産業。10～20年先を見据えた戦略や技術開発が必要」と説明。「もつける水産業とは何か考えることが重要だ」と強調した。

その一つとして、鮮度の仕組みを解明するために取り組んだ魚の体内にあるアデノシン三リン酸(ATP)の機能研究を例に挙げて紹介。「死後になくなるATPを体内に残すことで、魚肉タンパク質の安定化や凍

結保存中の血合い変化の抑制につながるものが分かると、高品質な冷凍刺身を開発できた」とした。

参加者らは真剣な表情で聞き入り「うま味はなくなってしまうのか」「付加価値が付いて高くなった商品が海外で買ってもらえるのか」など、熱心に質問していた。

(山本憲太郎)